

## +1 (プラスワン)

## 高江から平和を考える

牧師 横山順一

教団・部落解放センターの運営委員会が沖繩に行ってきた。前日の参議院選挙の結果、沖繩は基地反対を訴えた候補、伊波洋一さんが、対立候補に十万余票の大差をつけて当選し、そのことで本土とは違うムードが漂う沖縄でした。

一日目の会議の最中、高江 かねに資材搬入が強行されたとの知らせが入りました。普天間基地ゲート前でゴスペルを歌った直後、私たちは委員会を一日で終わらせて、二日目は高江の支援に駆けつけることに決めました。

朝六時出発で八時過ぎに高江に到着して見ると、そこはかつて訪れた高江ではなくなっていました。輸送車が何台も駐車し、機動隊やアルソックの隊員がたくさん米軍基地の入り口を守っていました。高江とは、沖繩島の北部、国頭村と東村にまたがる七十八平方キロに及ぶ広大な自然の場所です。通称「北部練習場」と呼ばれてい

ますが、正式名は「ジャングル戦闘訓練センター」と言います。米軍が世界でただ一つ持つ、海兵隊のジャングル訓練地なのです。ベトナム戦争時にも、ここで訓練された兵士たちが派遣されて行きました。

同時にそこは「ヤンバルの森」とも呼ばれる、貴重な動植物の宝庫でもあります。

米軍は、そこにオスプレイのヘリパッド（着陸帯）を新たに八つ作るうとしていっています。

オスプレイ自体が非常に危険なヘリコプターですが、訓練基地ですから、まだ慣れない兵士が操縦する訳です。

ネットで「高江」で検索すると、このオスプレイが深夜であろうと日々複数飛び回っていて、その時の騒音は百デシベルに達するほどのものです。自然破壊以外の何ものでもありませんし、住民にとっては危険そのものです。

既に四つのヘリパッドが完成しました。住民たちをはじめ反対する人々の声は一切無視して今に至っています。そのあたりは「標的の村」というドキュメント映画に

克明に描かれています。

参議院選挙翌日、それも早朝五時、六時から資材搬入を強行し、残り四つを短期に集中して作る計画です。

私たちはゲートを出入りする関係車両の前で、隊列を組み、時に座り込み、厳しい暑さの中、懸命に反対を訴え続けました。

しかし、機動隊は何と五百名、それが何班に分かれ、エアコンを利かせた輸送車の中で交代に休憩を取りながら「排除」にやってくるのです。

対する当方は四く五十名、暑さ一でへろへろになりながらの攻防です。一人に三名以上の隊員が対応しますから、簡単に「ごぼう抜き」される空しい抵抗となります。

翌週には更に五百名の機動隊が増員されました。この原稿を書いている二十二日、ついにその巨大部隊が本格的な反対派排除に乗り出しました。ネット中継を見ると、次々に「ごぼう抜き」されて行きます。これが我が国の現状です。どこに「平和」があるのでしよう。何が平和なのか、高江から考えたい、行動したい今夏です。